

平成二十九年十二月一日(土) 午後一時三十分受付・二時開演

於・宗家西川流稽古場 お席料 千円

新宿区市谷台町八の十二 二〇三(三三五五)二二二七

祐子のしおり 研修会

# 日本舞踊の彩 その四

一、ことぶき 西川祐子

お話し  
劇場へのいざない

日本芸術文化振興会  
安部有郷

一、連獅子

一、雨の五郎

西川祐子

西川扇恭祥  
西川ゆう乃祐

演奏 唄 東音小林百合 三味線 東音越智義乃

東音守屋沙弥香 東音渡辺麻子

囃子 藤舎千穂 藤舎清穂 藤舎夏実／安倍真結／  
望月美都輔

主催 西川祐子

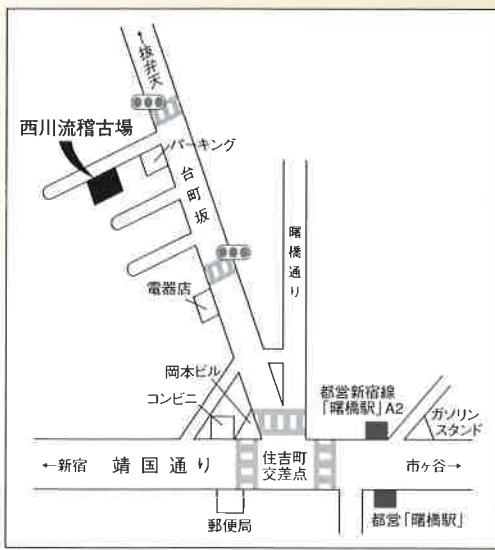
お問合せ

西川流事務所

二〇三(三三五五)六八七八  
新宿区市谷台町八一十二

企画室「日本の藝」加藤繁治  
二〇九〇(四〇六八)六六二五

※明年三十年十一月三十日(金)  
「祐子の会」をセルリアンタワー  
能率堂で開催予定です



## ■地下鉄のご案内

都営新宿線「堀橋駅」駅下車

A2の改札出口を出て、エレベーターで地上に出る。

台町坂を上がり、2つ目の信号バーキングの角を曲がり左側5軒目

## —作品への誘い—

### 「ことぶき」

へことぶきの 鶴と亀との代々を経て 変わ  
らぬ色の常磐なる 松と竹との末かけて 契り  
も深き相生の 栄久しき友白髪」三下りの小品  
です。

高砂の殿と姥の長寿を祝い、これにあやか  
ろうと願う心が唄われています。歌舞伎下座  
音楽の芝居唄の一つです。

### 「連獅子」

本来は松羽目舞台に手獅子を持つた狂言師  
父子が出、清涼山にかかる石橋のいわれを語  
り、深山幽谷の情景を描く。次が眠目の『獅  
子の子落し』で、谷に蹴落とされた子獅子が  
勢いよく駆け登り親子の情愛を描く。以下狂  
言師は花道に入り合狂言が入り、後ジテ親獅  
子が白頭、子獅子が赤頭をかぶつた獅子の精  
となり、勇壮な毛振り狂いをみせて終る。

この度は、素踊りでの上演で後ジテはない。  
親子の喜びあう様を蝶との戯れと共に手獅子  
で勇壮に踊り綴る。

### 「雨の五郎」

曾我狂言とも呼ばれるほど、曾我十郎、五  
郎の兄弟は苦節十八年の後、仇討ちをすると  
いう有名人です。この作は、その弟の五郎時  
致が、春雨の中、化粧坂の少将の恋文を手に  
廓通いする姿を描いています。父の仇討ちを  
心に秘めた荒事風の豪快な地と柔らかな唄が  
うまくまとった明快な曲で、踊りも荒事、  
和事風の豪軟さを兼ねそなえています。扮装  
は、大蝶の飛び模様の黒襦子の着付を東から  
げにし、海老茶の丸くげ帯をとんぼ結び、鎌  
○ぬの縫入の緋縮緬襦袢。髪は箱鬘の生締で  
す。

この度は素踊りにてご覧頂きます。なお初  
演の振付は四世西川扇藏です。

## プロフィール



子祐川 西

六歳より父・西川祐藏に手ほどきを受ける。二十二歳より花柳茂香師に師事。祐子の会を主催するほか、えんの会、N.H.K.や国立劇場主催公演等に出演。

日本舞踊振興財団評議員、川村学園女子大学中学非常勤講師、大妻日本舞踊クラブコーチ。「むすびの会」理事。文化庁芸術祭優秀賞など受賞。振付作品に「あらべすく」「風や」「道成寺」「井筒」など。明年十一月三十日セルリアンタワー能楽堂で「祐子の会」開催予定。「八島」「河千鳥」ほか。



乃智音 越東

十三歳の時吉住小十師に手ほどきを受ける。十七歳で故東音菊岡裕晃師に入門。東京藝術大学音楽学卒業。長唄東音会同人。

義乃の会を主催。古典に創作にと長唄を研鑽する一方、一中節を宇治はる師に師事、宇治し乃、荻江も荻江寿風の名を取得。演奏会・舞踊の地方でも活躍する。作曲に「オチヨコ傘」「散華幻想」「よたかの星」など。

本年十月十九日紀尾井ホールで「義乃の会」母の情愛をテーマに古典「賤機帶」と創作「厨子王の母」で開催予定。



合百林小音

高校在学中、故吉住十師に手ほどきを受ける。その後、東音赤木直明師、東音後藤敏之師に師事。東京藝術大学音楽学卒業。長唄東音会同人。



穂千舎藤

六世藤舎呂舟、藤舎せい子に師事。東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業、古典演奏会、日本舞踊会を中心に行なっている。

部邦楽科、同大学院卒業。国立劇場主催「明日になう新進の邦楽・舞踊鑑賞会」に出演するなど、演奏会、舞踊会、NHK FM放送など古典を中心とした演奏活動で活躍している。

作品に「調べ」「調べII」「結心」など素離子曲を多数作曲。離子「真しほ会」「青濱会」同人。  
「千しほ会」藤舎千穂Presentsお離子ライブ主宰。松尾塾芸能講師。一般社団法人長唄協会会員。